

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

[記入方法]

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

- | | |
|--------|-----------------|
| 項目番号23 | 初期に築く本人との信頼関係 |
| 項目番号24 | 初期に築く家族との信頼関係 |
| 項目番号25 | 初期対応の見極めと支援 |
| 項目番号26 | 馴染みながらのサービス利用 |
| 項目番号39 | 事業所の多機能性を活かした支援 |
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
- | | |
|--------|------------------|
| 項目番号53 | 身だしなみやおしゃれの支援 |
| 項目番号59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 |
| 項目番号60 | お金の所持や使うことの支援 |
| 項目番号61 | 日常的な外出支援 |
| 項目番号62 | 普段行けない場所への外出支援 |
| 項目番号63 | 電話や手紙の支援 |
| 項目番号64 | 家族や馴染みの人の訪問 |

[用語について]

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 _____ グループホーム フェアリー・1 _____

記入者(管理者)

氏名

矢部 和伸

評価完了日

平成20年 6月27日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一員として、地域のためにできる役割を考え、努める内容にしています。	地域でやっている剣舞会の方に来ていただき、近隣の方々を招いて施設を交流の場、楽しみの場として提供している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が良く出入りする事務所や廊下への掲示、最も強く思っている単語は別に玄関に掲示している。	新入職員の教育として、まずは理念の共有と業務に当たっての心構えについての指導を取り組んでいる。以前から努めている職員については理念を再確認する機会があまりつくられていない。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の為に出来る行事などをを行い、地域の方々への理解と、その時の写真等をご家族が来所した時に見せ、取り組んでいることの理解をしてもらうよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶やお話等は常に交流をも持つようにし、イベントなどに招待しているが、隣近所の方から、来所してもらうことは少ない。	イベントを何度かすることより、気軽に来ていただけのよう、地道に努めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での行事、お祭り等、地域の方と一緒に楽しめるよう見学だけではあるが、気持ちだけでも利用者様が参加してのような気になるよう努めている。他にボランティアで踊りに来ていただいたり、交流をとっている。	地域の交流の場となるよう、イベントをいろいろ考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生の体験就業や、近隣の高齢者で生活が困難(身体的に)なっている方がいる等、情報を聞いた際は家族の方の相談を聞いたり、一緒に包括支援センターに行ったり、力を活かした活動を行っています。		

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員と話し合い、できることから徐々に改善している。また分からないことがあれば同業者の方への相談をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を通して、地域の方々とのふれあいへの提案をいただき、実現できたり、活動報告をすることにより、他者が見えていない良さを分かっていただけるよう努めている。		会議メンバーに行政の方が入っていない。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何もなくとも、足を運び、お話をしたり、気軽に連絡し合えるような関係づくりに努めている。業務、事務的に疑問に思った際には必ず相談し、解決している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	代行しての金銭管理は、家族の要請があった時のみしているが、制度に対しての理解はまだ不十分である。		市町村担当者に制度について聞いてみたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての貼り紙を廊下に掲示している。入浴時等キズなどがないかの確認をかかさない。いろいろな利用者様がいるので、ストレスなど職員がためないよう、いろいろな職員の話や思いを聞いてあげるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	前年と同様で丁寧に説明をし、一部コピーを渡し、疑問があった場合には、言っていただくよう伝えている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の状態、態度から思いを察するよう努め、家族の意見、職員間での話し合い、看護師からの医療の意見を聞き、決まりごと等申し送りノートへ記入、話し合いに参加できなかつた職員については口頭での申し送りも加えている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は必ず電話での報告、その他来所いただいた時にも暮らしぶりを報告している。手紙だけでなく、会話することで、家族が安心してくれたり、一緒になって真剣に考えてくれるのではないかと考え、このように努めている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすくなるよう来所時(家族等)にはコミュニケーションをとり、意見を言い出せるような話の出し方を心掛けている。人目につかない所へ苦情箱を設置している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させていている	個別面談の他、ミーティングも行い、すぐに良い悪いを決めず、いろいろなことを試し、改善、向上を目指している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状況、職員の意見を取り入れ、毎月の出勤予定表を作成している。職員の急な休みにも対応出来るよう、運営者と職員で協力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	去年より離職者数が減っている。新しく雇用する時には、出来るだけ気心が知れている知人を採用したり、協力しあい、利用者様が職員たちを見て安心できるような雰囲気作りに努めている。		職員との接し方について、業務としての厳しさ、楽しさのメリハリをつけて上手に付き合うようにしているが、実際のところ相手の受け方での食い違いで、スムーズに行かないこともある。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を進めたりもするが、家庭の事情があり、本人の意欲がなかったり、事業所側としては職員個々にあっている研修について受講を勧めています。		まずどこまでの意欲があるのかを知り、また意欲を引き出すよう努めようと思う。個々の経験を活かした研修を共に受けようと申し込むが、どうしても運営者の方を優先され、研修者が偏ってしまう。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年と同じく、グループホーム連絡協議会の会員になっているが、実際のところ、職員の減少もあり、運営者がその補填として業務していたので、会の集まりに出席できていない。		会には出席していないが、同業者のケアマネジャーさんとは、定期的に連絡を取り、困った時の相談にのっていたり、逆に力になれることがある時は、手を貸したりと、交流を持っている。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の話を聞いたり、間接的に聞いた悩み事はそのままにせず、フォローを入れたり、全体で解決していくと一緒に取り組んでくれる職員が増えてくれている。		十人十色いろいろな職員がいますが、仕事としてよい悪いの強弱をつけながらもストレスを貯めさせない努力をしたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	前年と同じく、運営者も業務に関わり、個々の状況の把握に努めている。各自向上心を持つよう、雇用状態にメリハリも必要と感じる。		職員に対しての感謝の気持ちを忘れず、個々の状況により、雇用内容を変えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本当に家族に近い関係を目標に利用者様の発する言葉や行動に気を付け、本人に負担とならない程度(怒)に共感したり、支えあいながらの信頼関係を築こうと努めている。	信頼を失うことが内容、その時の利用者様の状態に合った職員と接することが出来るよう工夫している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	なるべく月に一度は手紙や電話をし、今おきている状況を細かく説明し、共にいろいろと考え、本人にとっての一番良い方法など、相談されたり、逆にしたりと、去年に比べると良い関係が作れていますと感じる。		家族と話をして、すごく気持ちが楽になることがあります。以前に家族が悩んでいたことを今、職員が悩んでいたり、だからこそ、家族との会話でお互い分かち合える。このような共感がもてた時がとても嬉しく思う。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	去年と同じく互いに良い関係がもてるよう思いやりや素晴らしさを会話の中に入れたりし、言葉に気をつけて接している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の状態を考え、出来ることでの支援をしている。馴染みの人との外出、馴染みの美容室への外出など、支援できることは、できるだけ支援している。		身体的に支援できる方が同じ方になってしまって、皆が出来るようよい方法がないか考えたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格や日頃の会話より、利用者様同士の仲の善し悪しを把握し、接していく、問題がなるべくおきないよう支援している。テレビのニュースなどの話をみんなで話したり、関わりが持てるような話題作りを心掛けている。		関わり合いが持てるような支援をしながらも、その時の状況や心構えを考えたりと、利用者様にとって負担にならないような支援をしたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	常に関わりを持つことはないが、事業所で開かれる舞会にお誘いし、来所していただいたり、すべての方ではないですが、終了しても関係の持っている方（家族）がいます。		街中で会った時の挨拶や少しの会話はしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけではなく、表情や行動からも思いをくみとれる様努めている。	本人だけでなく、スタッフ、ご家族からの話により、より深く思いを把握できるよう努めたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常より本人への思い出話やこれまでの体験等から生活歴等を把握できるよう努めている。	家族や面会者からも生活歴等を伺っていければと考えている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の日常生活行動やライフサイクル等を注意深く見守ることで思いや残存機能の把握に努めている。	関係者全体の意見を深く聞き取ることで、より総合的な偏見のない状態での把握に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	気づきを関係者から聞きとり必要な(有用な)計画はどういったものかを考え、計画を作成している。	スタッフ、ご家族等の関係者が一同に集まり、話し合う機会を積極的に設け、意見を聞いていければと考えている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身状況の変化に対応した介護記録を作成するよう努めている。大きな変化はご家族にも報告するようにしている。	予防的な側面も含めた、お手伝いさん的なものではない、自立を支援していくような計画を作成し、現状に応じ見直せるよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や引継ぎにより、状態の変化を共有し、有用な介護計画を作れるよう努めている。		心身状態の変化によりタイムリーに対応出来る介護計画の見直しを行っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる演芸会のようなイベントを開催し、生活にいろどりを添えるよう努めている。		本人にとって本当に必要な社会資源とは何なのか。地域でのあり方を考え、資源を活用していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム内でのサービスで完結している部分が多く他サービス活用支援は行えていない。		本人の為に活用できる他サービスは何なのかを常に考えるかを支援していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	判断能力が低い方、ご家族の協力が得にくい方等に関して相談し、指導をいただくようにしている。		問題が起ころってからではなく、未然に防げるよう、また、QOLが向上するよう、積極的に連携していくければと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、ご家族や本人の希望も聞いている。事業所でのかかりつけ病院の受診に関しては、同意を本人、ご家族から得た上でしている。		ほとんどの方が、事業所に往診、訪看に来ていただけの病院へ変更している。(何かあった時の対応が速く、事業所から近いこともあるので)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に主治医の往診や訪看に来ていただき、その必要性が出た場合には、主治医の医師と専門医の医師とで連携をとっていただき、スムーズに支援できるようにしている。		主治医や専門医には近状報告をし、その方に合った診察や、治療を受けている。
45			
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中でも病院やご家族に任せるのはなく、何度も足を運び、施設と病院との暮らしの違い等を病院側へお伝えしたり、今後の対応(食事等)など、病院へ出向き、指導を受け、いつでも退院の受け入れが出来るよう整えている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すべてのご家族の方とは話をしてないのが現状である。病院より終末期についてお話をあった際、どのような状況になったら、医療になってしまふ(状態も含め)というお話をしているが、書面としては残していない。		書面として残し、同意を得ることが必要。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病院と連携をとり、今後、その方の病状がどのようにになっているのか、その時の対応をどうするのか等、情報をいただき、生活上、心配なこと、不安なこと等相談をし、変化のある支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当事業所での生活ぶりの情報提供をし、医療面でも医師より細かく指導、注意点を聞き、まとめ情報提供している。また、他に聞かれたことに対しても分かりやすく伝えるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様の反応を見ながら、語調や内容に気をつけ、接触するよう心掛けている。また、気づいた点は、のがさず記録にし、情報共有するようにしている。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の行動ややりたい事の決定はもちろん、ホーム内の置き物に対しての位置決め、メニューなどいろいろな決める場面を作り、意見を取り入れている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日している処置、状態、状況に合わせての食事など、その日の気分をその日のペースにし、柔軟のある支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	利用者様の意向で決めており、不十分なところはさりげなく直している。美容は本人の望む所でやっていただき、たまに希望に近づけた散髪もしてあげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と近くのお店に食材の買出しに行ったり、また調理(食材を切っていただく)のお手伝いをしていただいたりしている。食器は気が向いた時にだけだが、洗うお手伝いをしてくれることもある。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師と相談をし、許される範囲で好きな食べ物を自分のお金で購入したりしている。その際の注意点で食中毒にならないよう気をつけて観察している。		
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	皆さん排泄は自立しており、自分で行っている。失禁があった際は、利用者様が落ち込まないような会話に心掛けている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時間、好きな時に入浴できることを一人ひとりに伝えており、毎日声掛けをして入浴したい時間等お伺いしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠していただくよう日中はできるだけ会話や運動するよう支援している。最近、ずっと誘眠剤を服薬していた方が、薬を服薬しなくても眠れるようになりました。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	個々に合ったお手伝いをお願いし、感謝の気持ちを伝えるようにしています。		利用者様自らトイレ掃除をしてくれたり、中庭の手入れをしてくれたりしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	ご家族や本人の状態の意見を聞き、個々に合った管理をしている。自己管理が出来る方には、通帳管理や銀行の出し入れもしていただき、買い物も自分での判断で金銭管理をしていただいている。		生活保護の方もいるので、気をつけ、気を配りながら管理したい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	希望にそって、行きつけの美容室に行ったり、買い物に行ったりの支援をしている。		散歩や外出を勧めても、なかなか外出しようしない方もいるので、外出する楽しみや、用事を作ってあげられるよう努力したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）	ご家族や知人には、体調の不調がない限り外出の制限はしておらず、一日ご家族と過ごしたり、知人と喫茶店へ外出したりしている方がいます。		知人に関しては連絡先、行き先等明確に伝えてもらうようにしている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	共有スペースに電話を置き、自由にかけられるようになっている。		手紙のやりとりについては、「書けない」「めんどう」という方ばかりなので、手紙ではなく、何か作成して、ご家族等に送ったりするのも良いかと考える。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	訪問時間は定めておらず、いつ来ていただいても明るく対応し、気軽に着ていただけるような関係作りに努めています。おかげで利用者様とそのご家族だけの面会ではなく、他の利用者様も加わり、長時間おられる方もいます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士の点検の他、運営者の点検も行っている。また入浴介助は、決められた職員ではなく、何人かの職員が対応することにより点検を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけておらず、日中は網戸にしたり、玄関や窓を開けている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、利用者様と同じ共有スペースにて業務をし、夜間時は、中央の共有スペースで全部屋の出入り口が見える場所で業務をしている。心配な時には、時間を見て様子確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態を見て注意しなくてはならない物、安全な物を考え対処している。夜間時は刃物を鍵つきの所へ保管したり、洗剤等は目の付かない所へ保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の身体の状況を考え、誤飲を防ぐ為の介助等、事故の想像をし、事前に防ぐ努力をしている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当について消防の方を講師に迎え訓練し、また対処のマニュアル本をいつでも見れる場所に保管している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や避難訓練を確保し、また避難場所を決め、訓練を行っている。		地域の協力は得てない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個々のリスクについての説明をし、職員間で話し合い、リスクをできるだけ安心、安全にするよう、用具、支援の手を増やすなどの対策をし、外出できるよう(希望にそって)にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル検査、個々の状態の記録をし、変化等があった際の情報共有の徹底に努めている。また、気になる変化があった時は、看護師や病院への相談、報告をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬指示書をファイルにし、情報の共有をしている。また、薬が変わった時などは申し送りにて報告し、副作用についても報告しており、専門職の看護師より、注意点などのコメントもらっている。		医療面でのアドバイスや、注意点などの意見交換の時間を作っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操や散歩、食事面では食物繊維にある食材を使ったり、牛乳を飲んだりと工夫している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状態に応じ声掛け、誘導を行っている。就寝前は義歯の洗浄を一部介助しながらも誘導している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の栄養士より指導を受け、職員間での勉強会をし、情報の共有に努めている。また、職員同士での「気づき」も大切に意見交換をしている。		必要に応じて、病院側で指導の場を作っていたいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、M R S A、ノロウイルス等）	感染症予防、対応のマニュアルを置いてあり、時間がある時に他のマニュアルも含め、勉強するようしている。疑問があれば、看護師に聞き、分からない今まで終わりにしないようにしている。		利用者はインフルエンザ予防接種をしている。職員についても予防接種をしているが、どうしてもやりたくない職員については強制はしていない。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間にまな板を漂白し、食材については過度な買い物置きはせず、冷蔵庫の物については、常に状態を確認し、調理、処分している。		

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり**(1) 居心地のよい環境づくり**

80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	希望を感じさせる花をできるだけ沢山置き、天気が良い日には玄関の戸を開け中が見え、親近感がわくような工夫をしている。		玄関には、かわいい飾りつけをし、楽しく明るく感じてもらえるよう工夫している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の光は、明るく強い物で花区、明るくても優しい感じの電球にしたり、天気の良い日には網戸にし、中庭にある花の香りを楽しんだり、また、隣の美容室から香るシャンプーの香りがしてきたり、居心地よく感じてもらえるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二つのテーブル、イス、テレビがある長方形のテーブル、廊下にあるベンチで、それぞれがその時の気分や状態で自由に使えるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所準備をする際に、使い慣れたもの、好みの物を自由にお持ち下さいとお話し、個々それぞれが好きなように置いたり、使用している。また、模様替えがしたい時には意思を尊重している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気扇を設置している。温度調節は温度計を見て、また、利用者様の意見を聞いて調整している。		
(2)本人の力の發揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が使いやすく、洗面台、台所の流しの高さを低くしている。その他、身体機能に応じて生活が送りやすくなるよう、部屋の模様替えをしたりしている。(立ち上がりやすくするよう家具の位置を変えたり)		A D L の状態を応じて、必要な福祉用具を設置しようと思う。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	大きなカレンダーを提示し、日付、曜日を見て理解しやすくしたり、中庭には希望を感じさせる花を置いたりしている。		昼夜逆転をしてしまう方には、毎食の声掛けの際「朝ごはん」「昼ご飯」と伝えたり、声掛けの仕方に気を付けている。
87	建物の外周囲や空間の活用 建物の外周囲やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に植木を置いたり、花を植えたりし、そのお手伝いをしていただいたり、水をあげていただいたりと持っている身体能力を生かしている。		お手伝いをしていただくことの感謝の言葉を伝え、次の活力になるようにしている。

([] 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今までの業務を振り返り、いろいろな改善をしています。何事も上手くはいきませんが、信頼できる職員を育て、中心となつてもらうよう、いろいろとつまずきながらも努力しているところです。